

## 1 はじめに

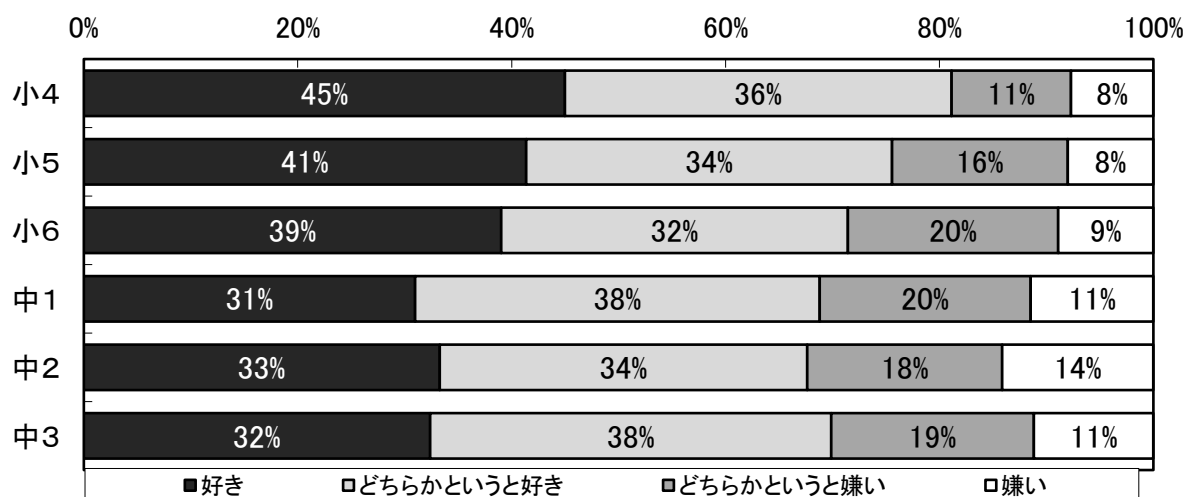
「なごやっ子の読書実態調査」は今回で43回目を数えます。児童生徒の読書量や読書傾向について調査し、データを蓄積・分析することで名古屋の読書指導に役立てることをねらいとして行っています。この調査は下表のとおり、市内の小中学生を対象に令和6年6月に実施したものであります。

| 学年  | 小 4  | 小 5  | 小 6  | 中 1  | 中 2  | 中 3  | 合 計   |
|-----|------|------|------|------|------|------|-------|
| 人 数 | 432人 | 472人 | 458人 | 624人 | 566人 | 604人 | 3156人 |

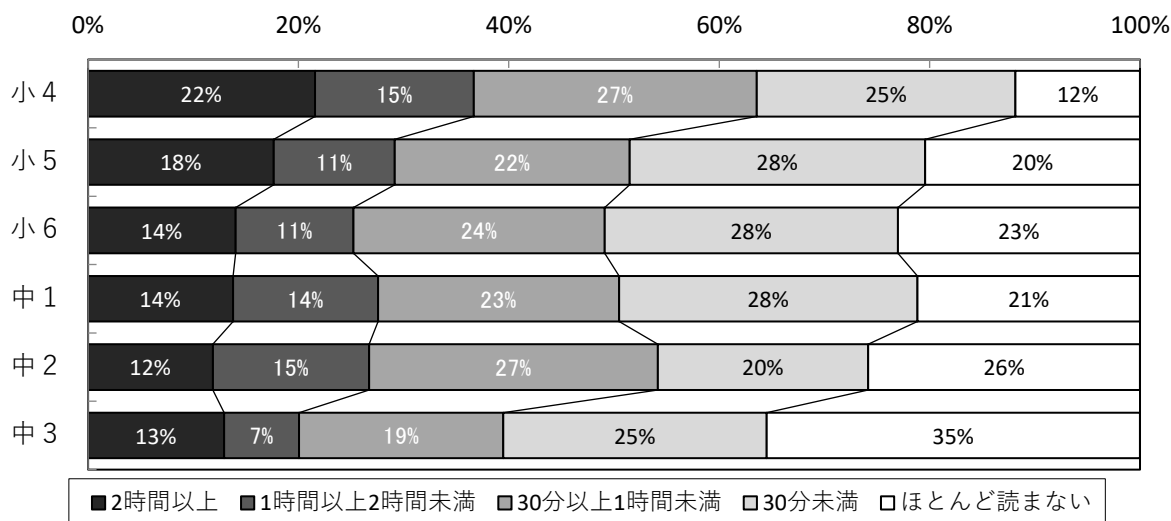
## 2 読書実態調査の結果

※ 表中の数字は、割合を示す小数点以下で四捨五入を行ったことで、合計が100%にならない場合もあります。

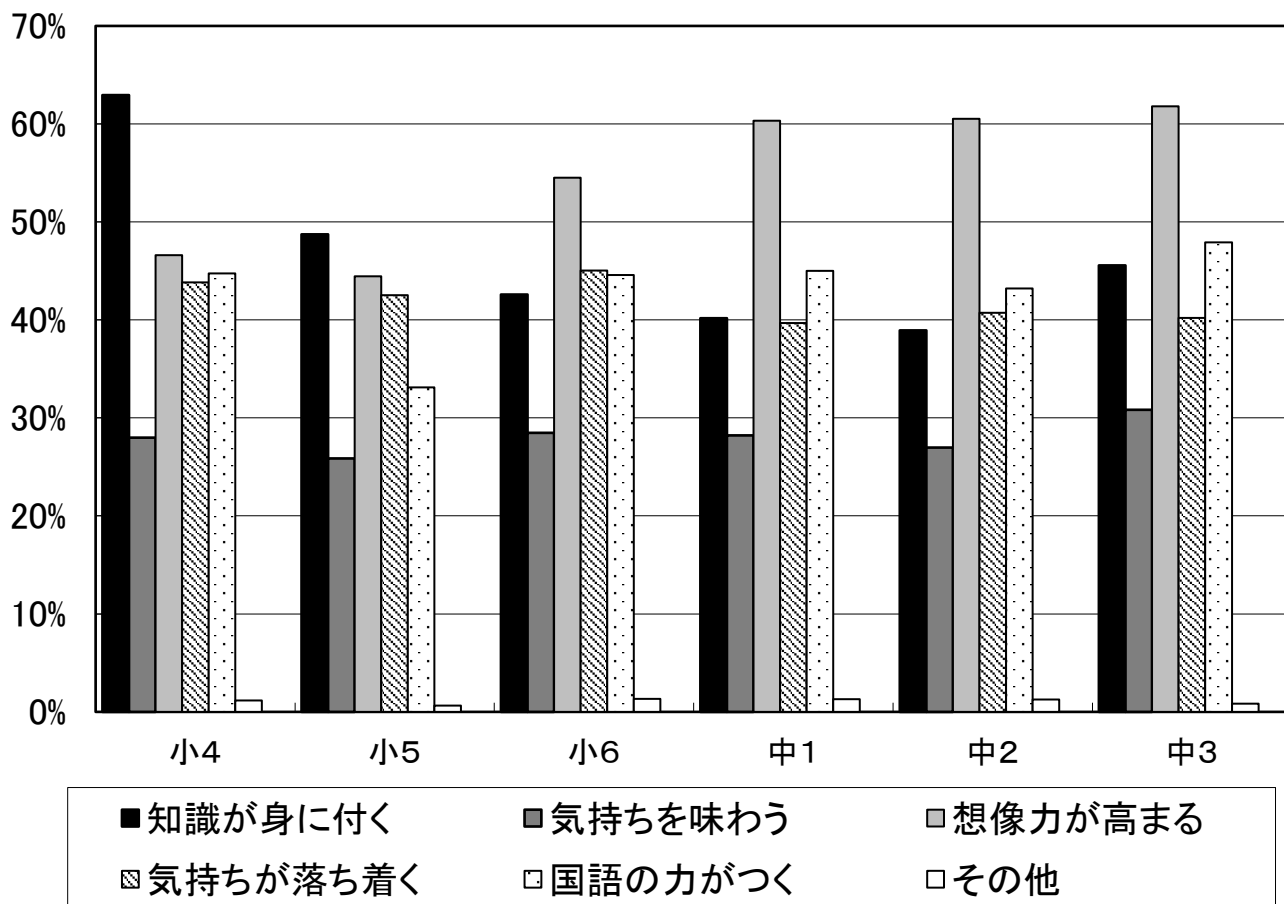
### (1) 読書は好きですか。



### (2) 一週間でどれくらいの時間、本を読みますか。

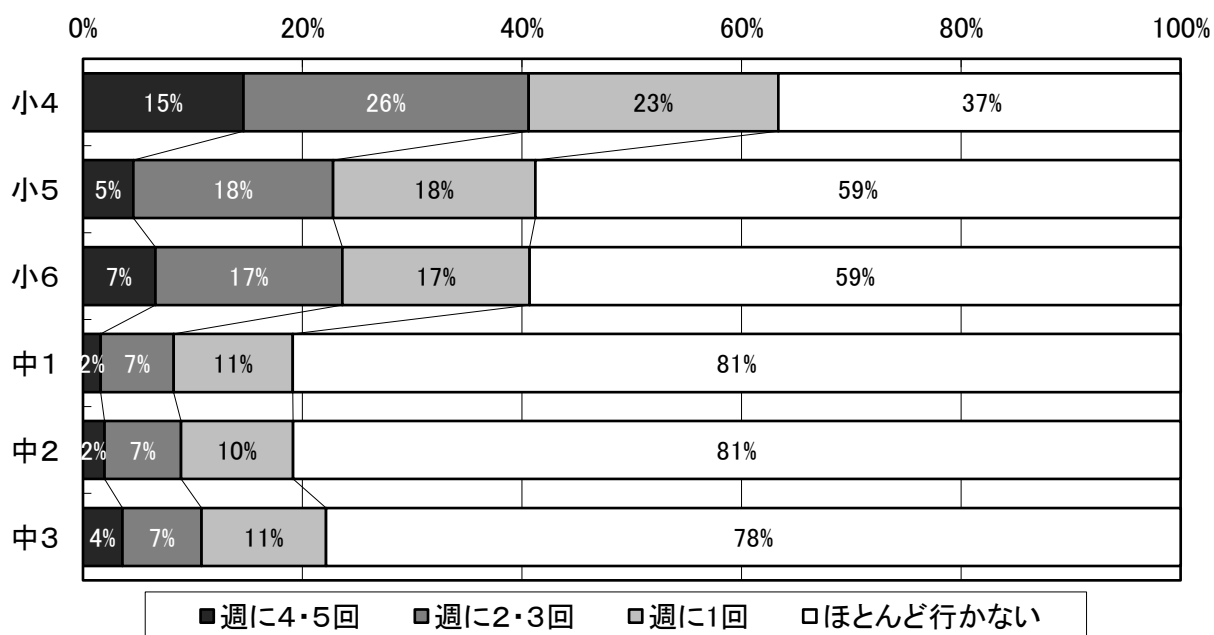


(3) 読書のよさは何ですか。

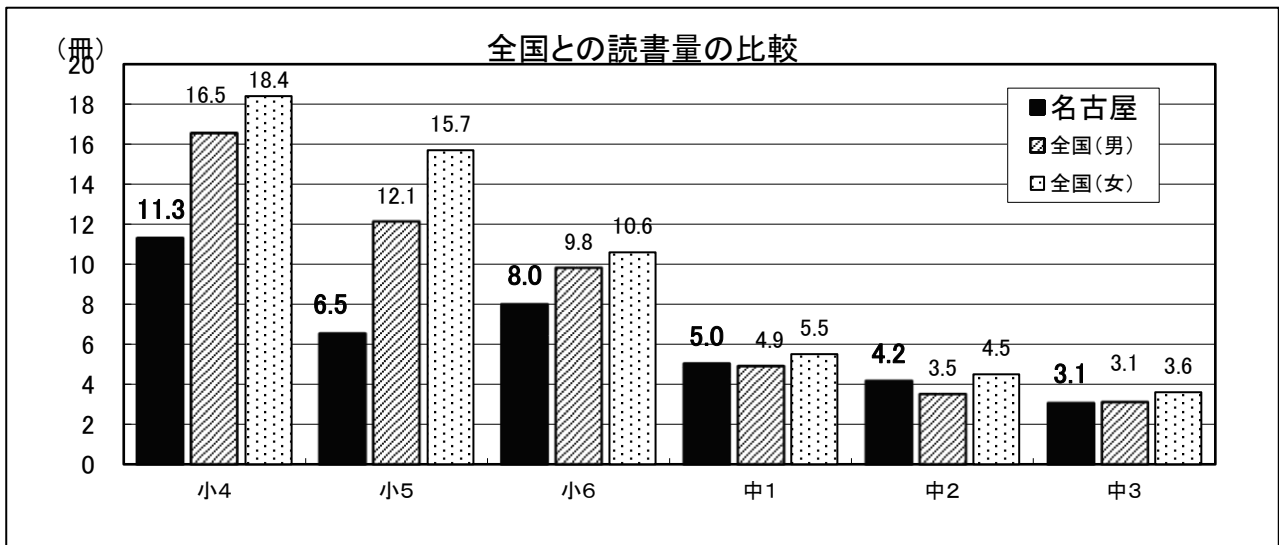
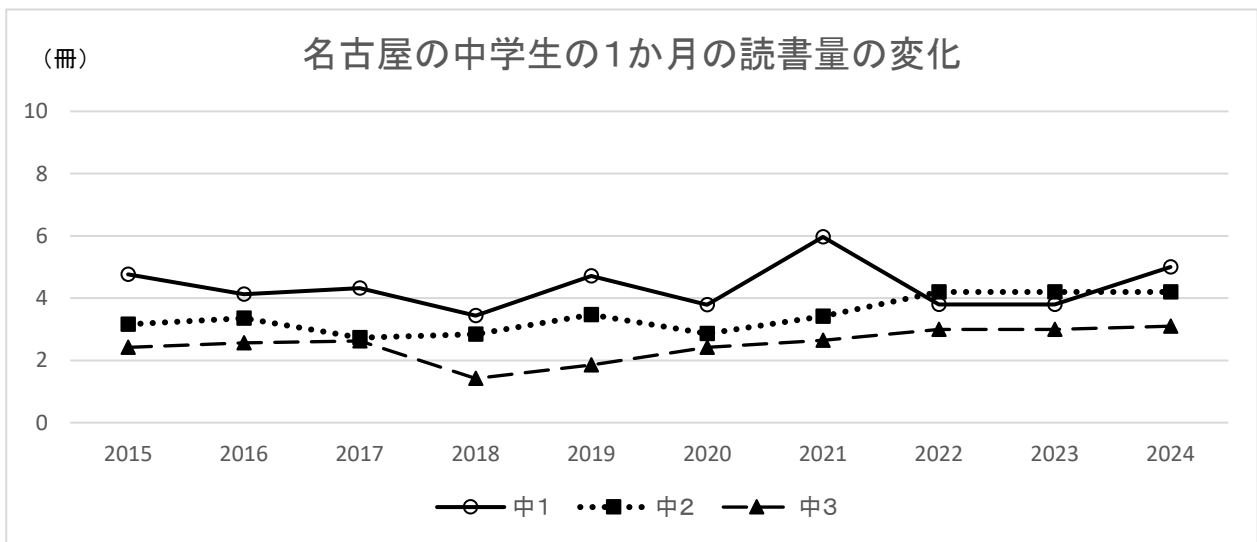
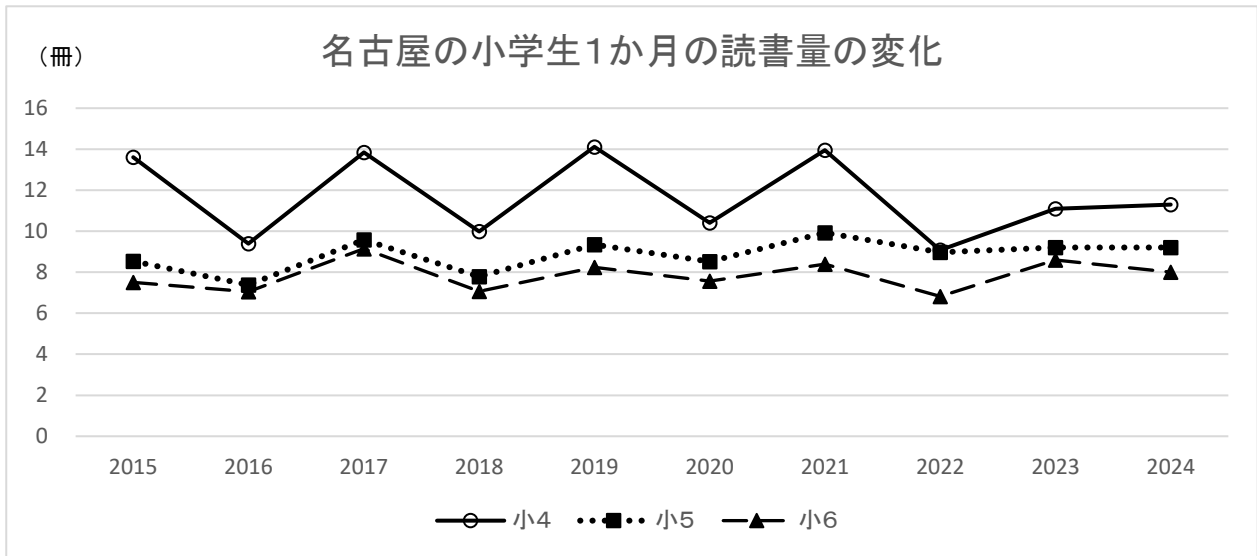


- ・ 小学生では「知識が身に付く」ことをよさと捉える児童が多い。
- ・ 中学生では「想像力が高まる」ことをよさと捉えるようになっていく。

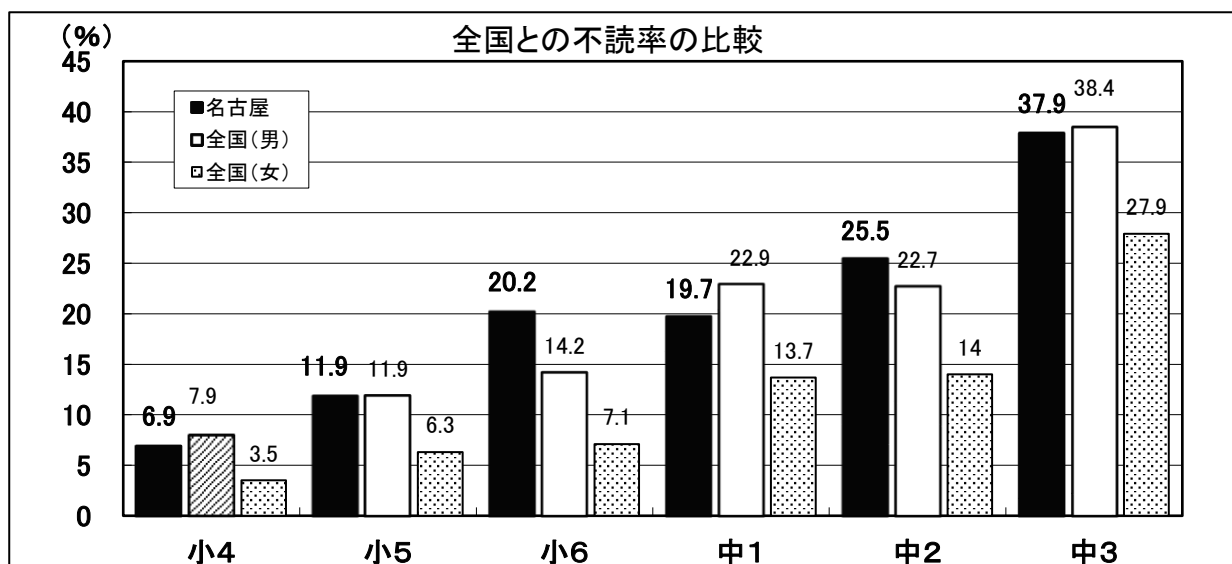
(4) 授業以外に、一週間に何回ぐらい学校図書館を利用しましたか。



(5) 6月1か月の間に、本（学習マンガをふくむ）を何冊ぐらい読みましたか。

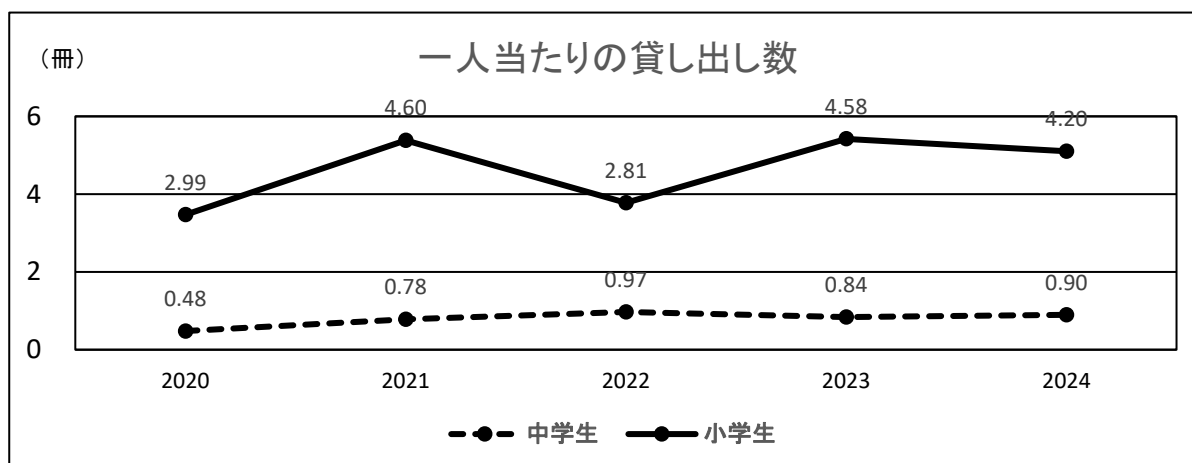


・ 小、中学生とも全国平均を下回っている。

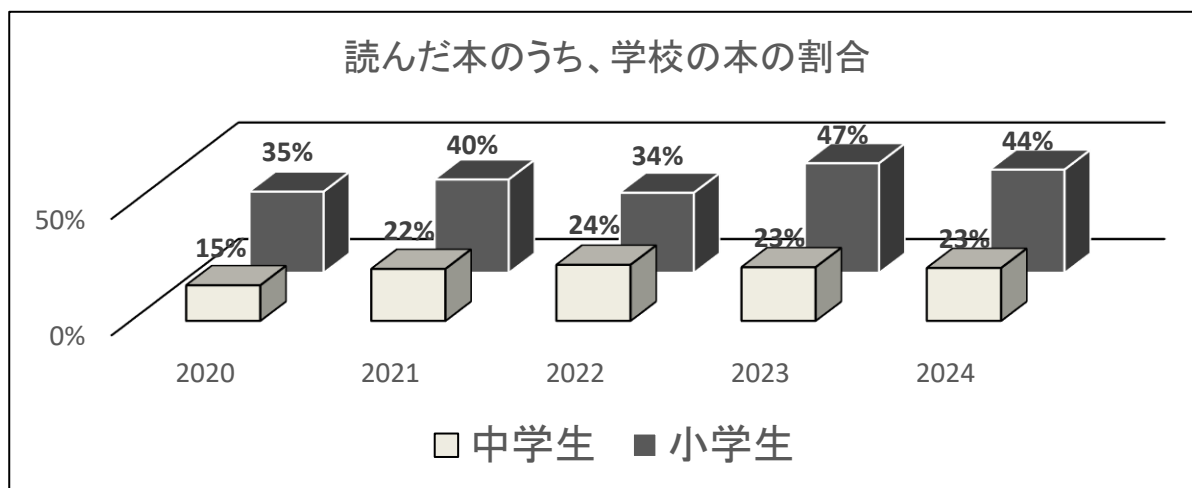


- ・ 小、中学生とも全国平均を上回っている。

(6) 6月1か月の間に学校図書館で何冊ぐらい本を借りましたか。

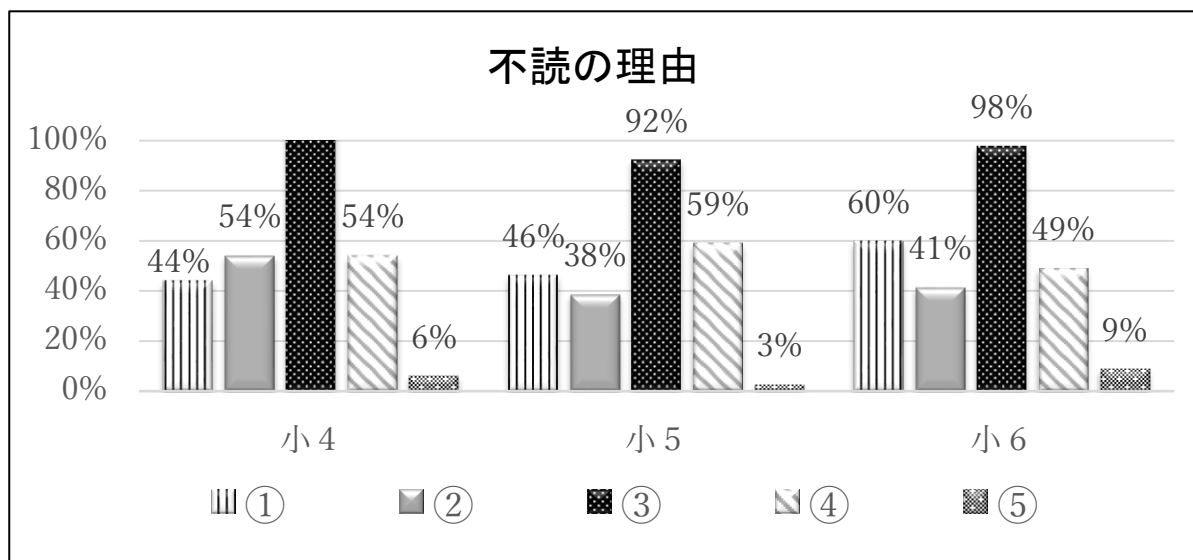


- ・ 小、中学生ともほぼ昨年度と同じ冊数である。

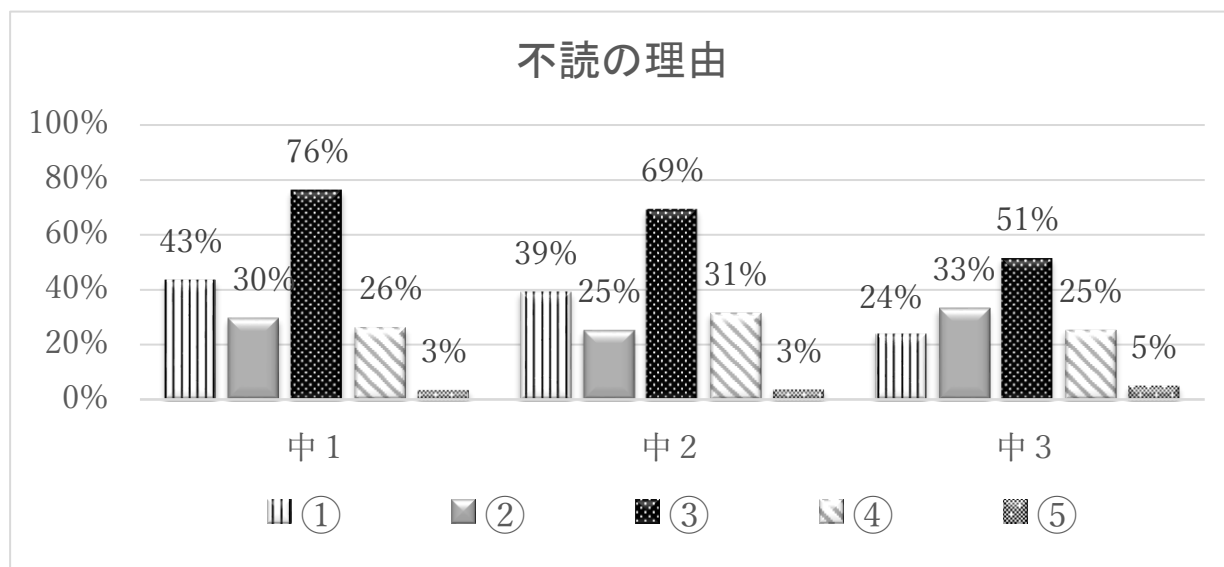


(7)「ほとんど読まない」を選んだ人が、本を読まない理由は何ですか。(複数回答)

・小学生



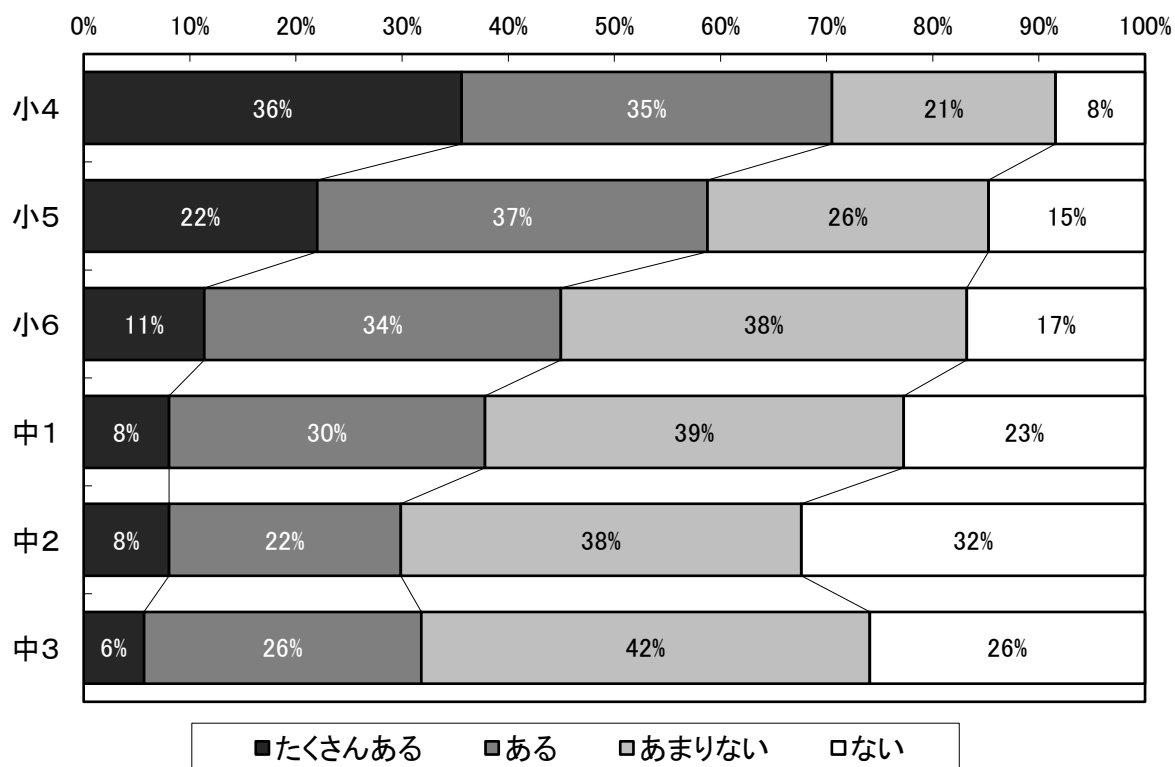
・中学生



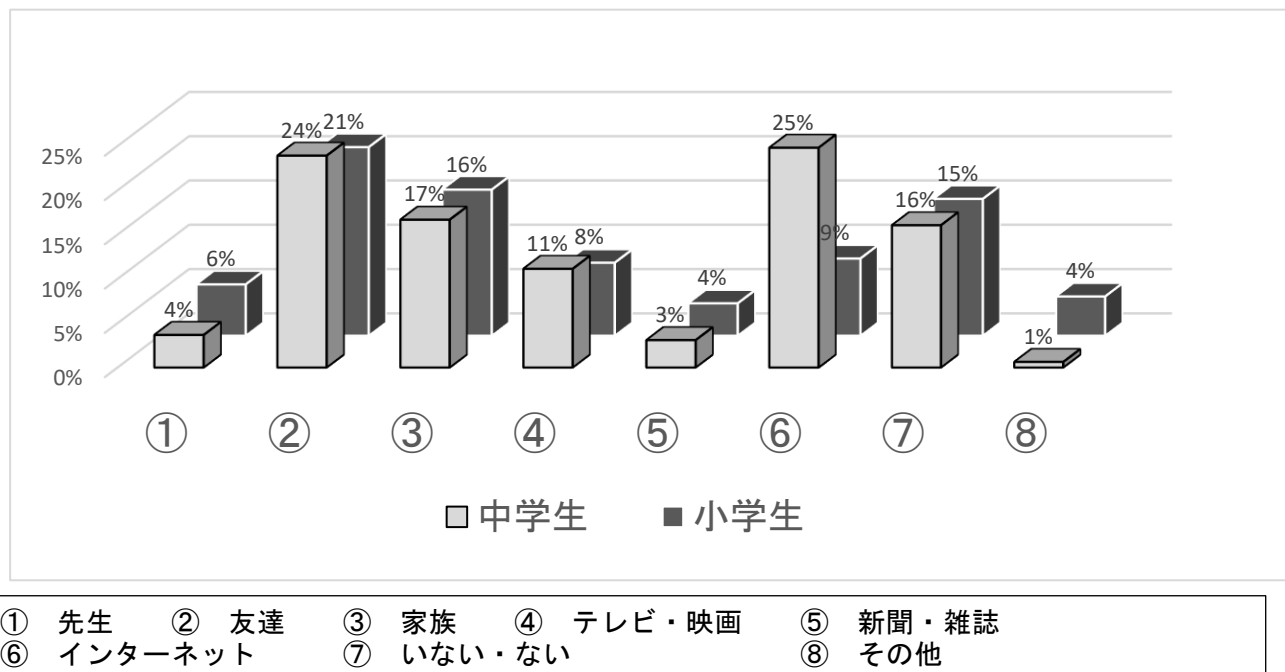
- ① 本を読むことが好きではない。
- ② 勉強で本を読む時間がない。
- ③ 他のことをしている方が楽しい。
- ④ 身近に読みたい本がない。
- ⑤ その他

・ 全体として、「他のことをしている方が楽しい」という回答が多い。

(8) あなたの学校図書館には、あなたが読みたいと思う本はありますか。

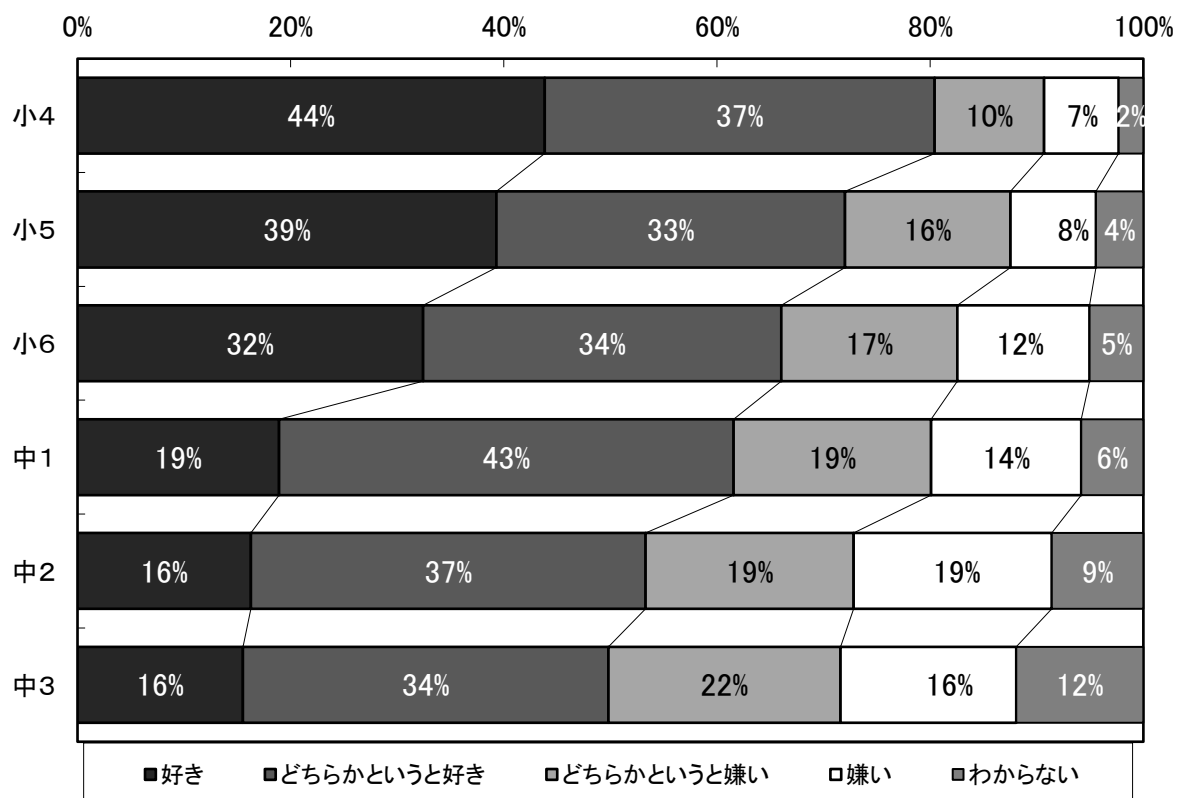


(9) おすすめの本を教えてくれるのは誰ですか。



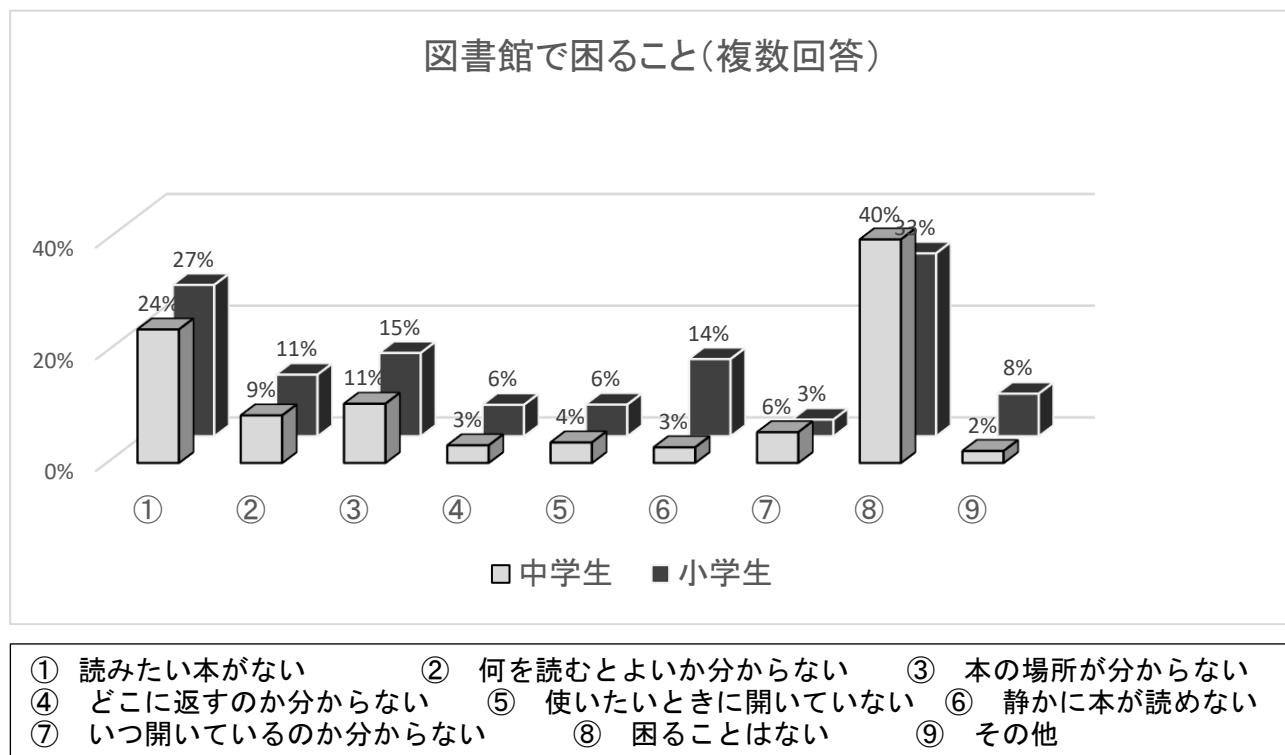
- ・ 小、中学生とも友達や家族にすすめられて読んでいることが多い。
- ・ 中学生は、インターネットから影響を受けて、本を手にとることが増える。

(10) 本や資料を使って調べる授業は、好きですか。

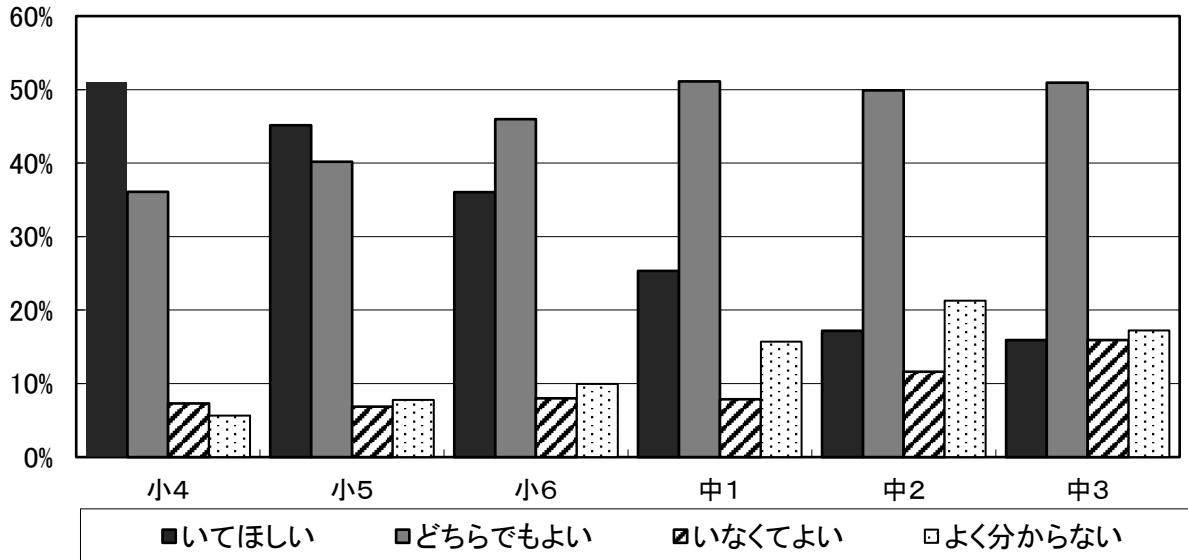


- ・ 学年が上がるにつれ、好きという割合は減少傾向である。

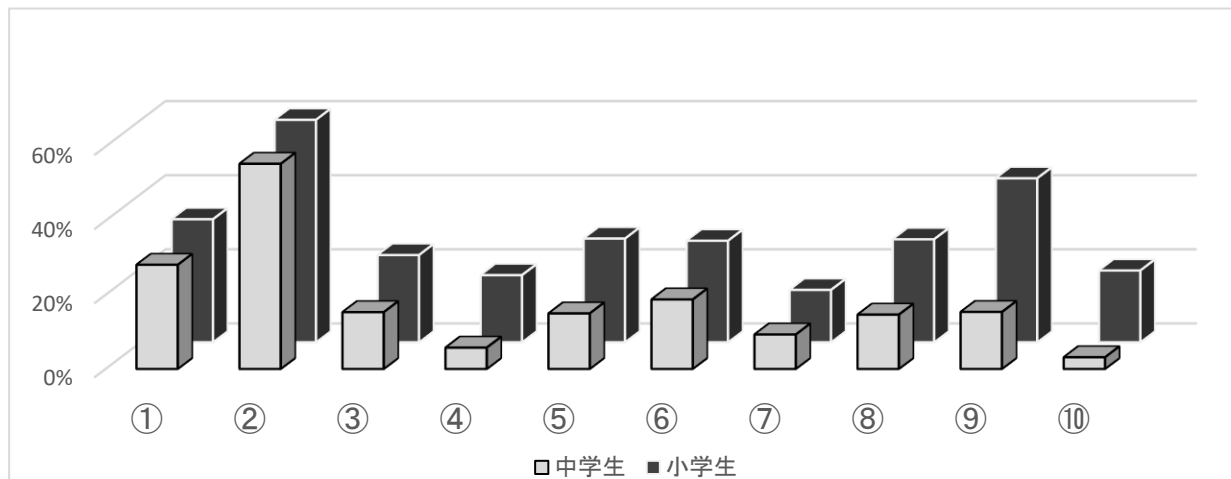
(11) 学校図書館を利用して、困ることや不便なことは何ですか。



(12) 学校の図書館に専門の先生がいてほしいですか。



(13) 学校の図書館にいつも専門の先生がいたら、どんないいことがあると思いますか。



- ① 本場所を教えてくれる      ② おすすめ本の紹介      ③ 調べ学習のサポート  
 ④ 読み聞かせ      ⑤ 本の整頓      ⑥ いつも図書館を開けてほしい  
 ⑦ 話し相手      ⑧ 図書館を飾る      ⑨ 騒いでいる人に注意      ⑩ その他

### 3 おわりに

本年度の調査では、小学校では7割以上、中学校では6割以上が「読書が好き」と答えたが、1週間の読書量は1時間未満が5割以上という結果となった。

個々のデータを注視してみると、全体的に不読率が上がっており、不読の理由では、「他のことをしている方が楽しい」との理由がどの学年でも、もっとも多く回答されている。読書のよさや楽しさを感じることができるよう読書活動を考えていきたい。

また、小学校では8割以上が学校の図書館に専門の先生がいてほしいと感じている。中学校にも学校司書という存在が認知されつつあるが、今後はもっと広がってほしい。

学校図書館に関わる教員や学校司書は、今後も一層、読書環境の充実と子どもがかけがえのない本と出会えるように、学校図書館の在り方を模索し続けていきたい。